

二〇二一年度

第一回

# 国語入試問題

帝京高等学校

※解答はすべて解答用紙に記入しなさい。  
※特に指示がない限り、句読点も一字に  
数えなさい。

【一】次の文章は、作家井上ひさしが小学校時代を回想したエッセイである。この文章を読んで、後の問に答えなさい。

年齢を重ねるにつれて頭の中身も変わつて行くようで、それをいま実感しています。分かりやすくいうと、一昨日の晩に何を食べたかが思い出せないのに、昔のちいさな出来事やある光景をひょいと思い出したりするようになります。

十月半ばに、逆流性食道炎と胆石と黄疸で倒れたわたしは、それから六週間ばかり自宅で病後を養つておりました。三つともいまでは「命に別条のない病気」ですし、それに十二月に入つてからは体調も落ち着いて、ほぼ元に戻りましたので心配はいりませんが、自宅で静養しているあいだの楽しみは、縁側の日溜まりでぼんやりしながら、昔のなんでもない光景をあれこれ思い出すことでした。

たとえば、毎夏の家出の思い出。

昭和十八年（一九四三）、国民学校（現在の小学校）三年の夏もまた、家出を計画しました。米作地帯の真ん中にあつたわたしたちの町では、秋のaシユウカクを前に、その年も稻に実がついたことに感謝し、やがてくる台風にその稻が倒されたりしないように祈るために、その時期に①祭をすることになつていきました。旧盆も重なりますから、それはたいへんな賑わいです。戦争中でしたし、町には男たちの姿が少なかつたけれども——ほとんどの青年や壯年の男子が兵隊に取られていたからですが——三流ながらも歌舞伎芝居はくる、講談、浪曲、落語の席は立つ、露店は並ぶで、お金だつてもらえます。

そのころのわたしたちにはお小遣いというものはありませんでした。紙芝居が見たい、映画が見たい、芝居が見たい、芋アメが買いたいと思つたとき、そのつど、家からお金をもらうことになつっていました。

わたしが熱中したのは、駅前の広場にやつてくる②サーカスでした。夏休みですし、午前中は朝早くから農家の手伝いで田の草取りをしますと、午後からはただひたすらテントのbセツエイに見とれていました。

地面に転がつていただけの丸太が林のように一気に並び立ち、すぐさま別の丸太が横に渡され、交差するところを繩でシバると、もう巨大な骨組みができあがる。そこへ天幕を張り巡らすと、昨日まで運送用の荷馬車がひしめき合つていた馬糞ばふんくさい空地あきちが、たちまち夢の殿堂にかわつてしまふのですから、ふしぎでした。

モウジュウ用の檻おりが着いて——年老いたライオン一頭、だけでしたが——サークัส団の樂隊が町を練り歩く。<sup>(3)</sup>そうすると<sup>(4)</sup>もうだめです。初めからおしまいまで樂隊について回つていきました。

さて問題はサークัสを見物するお金です。サークัสは一週間も興行eしてゐるのに、母は二回分しかお金をくれない。それでもへこたれずに「お金をちようだい」とせがむ。すると母が怒つて、「そんなにサークัสが好きなら、いつそサークัสへ入つておしまい」という。それで毎夏、家出を決意することになるわけです。その夏もそうでした。<sup>f</sup>夜更けにこつそり荷物をまとめて——下着や教科書を風呂敷で包むだけですが——サークัสへ駆け込もうとしていると、それまでじつとわたしの様子を見ていた五歳の弟が追つてきて、うしろから思い切り抱きついてきた。その前の年は兄に呼び戻されたのですが、その夏はうしろから弟がわたしの腰を両手で抱え込んだのです。

ぼくの分のお金を上げるから、兄さんは四回、見ればいい。だから家に帰ろう……弟はそんなことを言つていました。そこで思い止まつたのですが、じつのところ、わたしも恐かつた。自分はまだ小さくてサークัส団員がつとまるわけはない。断られたらどうしよう。また、たとえ入れてもらえたとしてもサークัส団長が人買いかなんかだつたらどうしよう。炭鉱にでも売られるのではないか。家を出たものの、そう思うと恐くて仕方がなかつた。それで<sup>(5)</sup>弟の願いを聞き入れたという格好にして、家へ戻りました。

力いっぱい抱きついてきた弟の手の、ほんとうの意味を理解したのは、高校一年の春、復活祭に<sup>g</sup>センレイを受けたときでした。センレイを授けてくださつた神父が、お祝いにこんな言葉を贈つてくれたのです。

「わたしたちの手がなんのためにあるのか、それをよく知つてください。いいですか、モノを持つため、モノを取るため、モノを拾うために、この手があるわけではありませんからね。わたしたちの手は、だれか大切な人の心を抱き締めるためにあるのです。体を抱くためではありません。いいですか、心を抱き締めるためにあるのですよ」

あのときの弟の手は、わたしを引き止めたのではなかつた。じつは彼はわたしの心を抱き締めていたのです。それ以来、わたしは弟を宝石よりも尊いものに思つています。

(『井上ひさしへスト・エッセイ』井上ひさし著 ちくま文庫)

問1 文中の傍線部 a ↗ d・g のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部 e 「興行」・f 「夜更け」の漢字の読み方を答えなさい。

問3 傍線部①「祭をすることになつていました」とありますが、この「祭」は、どういう目的で行われるものですか。説明しなさい。

問4 傍線部②「サークス」とありますが、これを比喩で言い換えた表現を文中から抜き出して答えなさい。

問5 傍線部③「練り歩く」とありますですが、この意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大勢が集団となつて整列し、勢いよく歩くこと。
- イ 行列を作り、ゆっくり調子をそろえて歩くこと。

ウ 集団の中で、個々が思いのままに行動し、最後に一か所に集合すること。

エ きびきびとさわやかで、気持ちよく歩くこと。

オ 集団の中で、個々が声高にそれぞれの主張を叫びながら歩くこと。

問 6 傍線部④「もうダメです」とありますか。なにが「ダメ」なのですか。説明しなさい。

問 7 傍線部⑤「弟の願いを聞き入れたという格好にして」とありますが、家に戻った筆者の心理として最も適当なものを次のなかから一つ選び、記号で答えなさい。

ア サーカスが好きで家出をしたものの、やはり家族が恋しくなってしまい、家に帰りたくなったから。

イ サーカスが好きで家出を決意したものの、兄や弟に迷惑をかけ、自分のしていることを反省したかったから。  
ウ 小遣いを十分にくれない母親に反発して家出を決意したが、お金の手持ちがなくなつて身動きが取れなくなつてしまつたから。

エ サーカスが好きで家出を決意したが、いろいろと今後のことを考えたら不安になり、家に戻る口実として自分を正当化した。

オ サーカスに入りたいという自分の夢を理解してくれない母親に反発しながらも、自分の唯一の理解者の弟の言うことに従つた。

問 8

傍線部⑥「力いっぱい抱きついてきた弟の手の、ほんとうの意味を理解したのは」とありますが、この「ほんとうの意味」とは、今までの解釈とは違つてどういうことがわかつたというのですか。「今までの解釈」と「ほんとうの意味」のそれぞれを明らかにして、わかりやすく説明しなさい。

## 【二】次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「人は一人では生きていけない」

皆さんは先生やご両親から、よくこうした言葉を聞かされたことはありませんか。テレビドラマなどでもこんなセリフをよく耳にします。「たしかにそうだな、人間一人では生きていけないな」、との言葉に素直に納得する人もいるかもしれません。でも反対に「ホントにそうかな。なんかしつくりこないな。人はじつは一人でだつて十分生きていけるんじゃないかな」と思う人だつているでしょう。

皆さんはどう思われるでしょうか。

この問い合わせに関する答えの傾向としては、こんな予想が立てられます。<sup>①</sup>年齢が上になればなるほど、そして暮らしている場所が地方であればあるほど、「人は一人では生きていられない」と答える可能性が高い。そして若い年代でしかも都会暮らしであればあるほど、「案外人間は一人で生きていけるのではないか」と答える割合が多いのではないかと。もちろん都会暮らしの若者すべてが「一人でも生きていられる」と考えるわけではないでしょう。しかし全体的にはこうした傾向が見られるのではないかと思われます。

人と人との「つながり」の問題を考える最初の出発点として、人は本当に一人では生きられないのか、それとも、まあそれなりに生きていけるのかといった問い合わせ立ててみましょう。

かつての日本には「ムラ社会」という言葉でよく表現されるような地域共同体が存在していました。「ご近所の人の顔と名前はぜんぶわかる」といった集落がそれですね。これは、何も地方の農村や漁村だけに限ったことではなく、東京のような都會にだつてあつたのです。近所に住む住人同士の関係が非常に濃密な「ご町内」が、昭和四〇年くらいまでの日本には確かにありました。

そんな「ムラ社会」が確固として存在した昔であれば、これは明らかに「一人では生きていけない」ということは厳然

とした事実でした。

なにより、食料や衣類をはじめ、生活に必要な物資を調達するためにも、仕事に就くにしても、いろいろな人たちの手を借りなければいけなかつたからです。こうした、A的に一人では生活できない時代は長く続きました。だから、村の交際から締め出されてしまう「村八分」というペナルティは、割と最近まで死活問題だったわけです。

(一)、近代社会になつてきて、貨幣(=お金)というものが、より生活を媒介する手段として浸透していくと、極端な話お金さえあれば、生きるために必要なサービスはだいたい享受できるようになりました。

とりわけ、今はコンビニなど二十四時間営業の店も増え、思い立つた時にいつでも生活必需品は手に入れられるし、ネットショッピングと宅配を使えば、部屋から一歩も出ずにあらゆるサービスを受けることも可能になつていています。働くにしても、仕事の種類によつてはメールとファックスで全部済んでしまう場合だつてあります。

このように、一人で生きていても昔のように困ることはありません。生き方としては、「誰とも付き合わず、一人で生きる」ことも選択可能なのです。

ある意味で、「人は一人では生きていけない」というこれまでの前提がもはや成立しない状況は現実には生じているといえるのです。

(二)、こうした現代的状況を目の前にして私が言いたいのは、「だから、一人でも生きていいけるんだよ」ということではありません。みんなバラバラに自分の欲望のおもむくままに勝手に生きていいきましょうといったことでもあります。「一人でも生きていくことができてしまつ社会だから、人とのつながることが昔より複雑で難しいのは当たり前だし、人とのつながりが本当の意味で大切になつてきている」ということが言いたいのです。つながりの問題は、こうした観点から考え直したほうがよさそうです。

今の私たちは、お金さえあれば一人でも生きていいける社会に生きています。

でも、普通の人間の直感として「そつは言つても、一人はさびしいな」という感覺がありますね。本当に世捨て人のよ

うな生活が理想だという人もいないわけではありますんが、たいてい、仮にどんなに孤独癖の強い人でも、まつたくの一人ぼっちではさびしいと感じるものです。

ではなぜ一人ではさびしいのでしょうか。やはり親しい人、心から安心できる人と交流してみたい、誰かとつながりを保ちたい。そのことが、人間の幸せのひとつの大きな柱を作っているからです。だからほとんどの人が友だちがほしいし、家庭の幸せを求めているわけです。

あの人と付き合うと便利だと便利じやないとか、得だとか損だとかいった、そういういた利得の側面で人とつながっている面もたしかにあるけれども、しかし人ととのつながりはそれだけではないわけです。

だから、「人は一人でも生きていけるか」という問い合わせに対する私の答えは、「現代社会において基本的に人間は経済的条件と身体的条件がそろえば、一人で生きていくことも不可能ではない。しかし、大丈夫、一人で生きていると思い込んでいても、<sup>(3)</sup>人はどこかで必ず他の人々とのつながりを求めがちになるだろう」です。

誰でも、「人と親しくなりたい」、「人ととのつながりの中で幸せを感じたい」と願うものです。B的に人間は、つながりを求めるものなのです。

しかし、現代は、それを求めることによってかえって傷ついたり、人を追い詰めたりするような現状に陥ることがあります。皆さんだって、少なからずそんな経験をしたことはあるでしょう。

どうしてそうなってしまうのでしょうか。  
一つには、<sup>(4)</sup>「親しさを求める作法」が、いまだに「ムラ社会」の時代の伝統的な考え方を引きずっているからなのだと私は考えています。

じつはご年配の方はもちろん、意外なことに若い人の中にも、その「古い作法」を引きずっている人は結構多いのです。むしろ若い人のほうが、「古い作法」に強く純粋に従っている傾向があるかもしれません。

ある程度社会経験を重ねれば、のらりくらりとかわせることも、若い人は真正面から受け止めてしまいがちです。中

学、高校などの部活動における先輩—後輩の関係の作り方などをみていくと、そう感じことがあります。一歳か二歳しか違わないのに、かなり厳しい上下の関係を守っている場合がありますね。だから辛いし、時として爆発してしまうこともあるのではないでしようか。

私たちはある種の共同体的ながりや関係の中で培つてきた、とりわけ日本人的な親しさの作法をお手本にし続けています。そこには確かに、損得を超えて人を全面的に包み込むような温かみや情愛の深さを受け継いでいる面もあるかもしれません。( 三 )、無下に否定してしまうわけにはいかないという側面が確かにあります。しかし、みんな同じような職業や生活形態を前提とするムラ的な共同体の作法では、もはや親しさを維持することはできないほど、私たちの置かれている状況は以前とはすっかり変わってしまったと考えたほうがいい。ムラ的な伝統的作法では、家庭や学校や職場において、さまざまに多様で異質な生活形態や価値観をもった人びとが隣り合って暮らしているいまの時代にフィットしない面が、いろいろ出てきてしまっているのです。そろそろ、同質性を前提とする共同体の作法から、C的に脱却しなければならない時期だと思います。(一部省略部分あり)

『友だち幻想』菅野仁(

問1 (一) (二) (三)に当てはまる語句を次のの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

「ア なぜなら イ ところが ウ だから エ さて オ また」

問2  A  C に当てはまる語句を次のの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

「ア 本質 イ 自覚 ウ 強制 エ 物理 オ 利己」

問3 傍線部①「年齢が上になればなるほど、そして暮らしている場所が地方であればあるほど、『人は一人では生きていられない』と答える可能性が高い。そして若い年代でしかも都会暮らしであればあるほど、『案外人間は一人で生きていけるのではないか』と答える割合が多いのではないか」とあります。が、なぜこうした傾向があると筆者は考えているのでしょうか。その理由として最も適当なものを次のの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 年配者は、年を取ると人の手を借りなければ自立した生活ができなくなるが、若者は、人の助けがなくてもお金があれば生きていけるから。

イ 年配者は、濃密な人間関係の中で社会生活をしてきたが、若者は、お金さえあれば人と付き合わずに生きていいくことが可能な生活を選択できるから。

ウ 地方の「ムラ社会」で生きている人は生活が苦しいので、人と助け合つて生きていかねばならないが、都会の人はお金を持つてるので、人と交際しなくとも生きていける生活環境があるから。

エ 地域共同体の中で人間関係にしばられて生きてきた地方の人は年を取つてもその社会から抜け出せないが、都会の若者はこうしたしづらがなく、自分の欲望のおもむくままに生きることが可能だから。

問4 傍線部②「こうした観点」とありますか。どのようなことを指していますか。七十字以内で説明しなさい。

問5 傍線部③「人はどこかで必ず他の人々とのつながりを求めがちになる」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 親しい人や心を許せる人とのつながりを持つことが、人間の幸せにつながっているから。
- イ 人はさびしさゆえに、必ず誰かに頼つて生きざるを得ず、家族や友だちをあてにしてしまうから。
- ウ 人との付き合いの中から生まれる様々な利得を求める中で、幸せを追求しているから。
- エ 人とのつながりを求めることで、傷ついたり、人を追い詰めたりするようなことを防ぎたいから。

問6

傍線部④「親しさを求める作法」が、いまだに『ムラ社会』の時代の伝統的な考え方を引きずっている」とありますか。その「作法」の根底にあるものとして、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

〔ア 人間性 イ 社会性 ウ 同質性 エ 異質性〕

問7

傍線部⑤「私たちの置かれている状況は以前とはすっかり変わってしまった」とありますが、「私たちが置かれている状況」とはどのような状況だというのですか。それを説明している部分を「～という状況」に続くように、本文から四十字以内で探し、最初の五字を答えなさい。

問8

次の各文の中で、本文の内容と一致するものは○、そうでないものに×をつけなさい。(ただし、すべて同じ記号にしないこと)

ア かつての「ムラ社会」は、損得を超えて人を包み込む温かみや情愛の深さがあったのは否定できない。  
イ 現代の生活は、多様な生活形態や価値観の変容で、人とのつながりが難しくなった。

ウ 「人はお金さえあれば一人でも生きていける」ということを否定はしないが、さびしさはある。  
エ 年配者は、地域社会の人々と濃密に関わりながら、お互い助け合って生きていくべきである。  
オ これからは、伝統的な作法を踏まえた人間関係を基本としつつ、異質性を認める寛容さが必要である。

【一】問1

a

b

c

d

e

f

(け)

g

受験番号

氏名

得点

問8

問7

問6

問5

問4

問3

問2

(【二】の解答欄は裏面にあります)

二  
問  
1

問  
2

問  
3

問  
4

問  
5

問  
6

問  
7

問  
8

1

ア  
イ  
ウ  
エ  
オ

1

A large, empty rectangular box with a black border, intended for a child to draw or write in.

A large, empty rectangular box with a black border, intended for children to draw or write in.

A
B
C

I  
II  
III

## 【一】

## 問1

a 収穫

b 設営

c 縛

d 猛獸

d 洗礼

## 問2

e こうぎょう  
f よふ（け）各③点

受験番号

氏名

得点

## 問8

## 問7

## 問6

## 問5

## 問4

## 問3

## 問2

今までは家出をする自分を弟が引き止めていたものと思つていて、弟の手が抱き締めていたといふことを理解した。弟の心を抱えていたわたくしの心を

エ

③点

サーカス団の樂隊が、サーカスの宣伝のために町を練り歩くと、サーカスを見たいといふ気持ちをがまんできず、それについて回るこ

イ

③点

夢の殿堂

③点

秋の収穫を前に稻に実がついたことを感謝し、台風にその稻が倒されたりしないように祈る目的で行う。

e こうぎょう  
f よふ（け）各③点

b 設営

c 縛

d 猛獸

d 洗礼

各③点

(【二】の解答欄は裏面にあります)

⑧点

③点

④点

## 問4

## 問3

## 問2

## 【二】

## 問1

I イ

II エ

III ウ

各②点

A エ  
B ア  
C イ

④点

き 、 る で 現  
て 人 こ き 代  
い と と て は  
る の が し 一  
と つ 昔 ま 人  
い な よ う で  
う が り 社 も  
こ り 複 会 生  
と が 雜 で き  
。 大 で 、 て  
切 難 人 い  
に し と く  
な い つ こ  
つ ゆ な と  
て え が が

⑧点

## 問8

## 問7

## 問6

## 問5

ア ○

イ ○

ウ ○

エ ✕

オ ✕

さ  
ま  
ざ  
ま  
に

⑤点

ウ

④点

ア

④点

各②点

